

平成 26 年度 【 学園研究費助成金 < B > 】 研究成果報告書

学部名 文化情報学部

フリガナ ヒグチ ケンイチロウ
氏名 樋口謙一郎

研究期間 平成 26 年度

研究課題名 ロンドン郊外におけるコリアタウンの形成とコミュニケーションの様相に関する研究

研究組織

	氏名	学部	職位
研究代表者	樋口謙一郎	文化情報学部	准教授
研究分担者			
研究分担者			

1. 本研究開始の背景や目的等 (200 字～300 字程度で記述)

本研究では、近年グローバル化に伴い、欧米の大都市におけるエスニック・コミュニティの住民構成や域内流通言語が多様で融合的な様相を示していることについて、それをエスニック・コミュニティの「変遷」と位置づけた上で、英ロンドン近郊地区のコリアタウンを事例として、そこでの多言語コミュニケーションおよび構成員の言語態度・言語観の変容状況・問題点を明らかにすることを旨とする。

具体的にはロンドン中心部の南西に位置するニューモルデンに着目し、そこでの①コミュニティメディア、②言語景観、③言語サービス（行政・公共情報提供）、④観光情報——の動向が、当該コミュニティおよびホスト社会とのコミュニケーションや構成員の言語態度・言語観にいかなる変化をもたらしているのかを考察する。

2. 研究方法等 (300 字程度で記述)

第 1 に基礎的な知識集約と先行研究のレビューのため、英国のアジア系コミュニティの歴史と現状に関する基本資料（日本語、英語、韓国語、中国語）の収集・分析を行い、近年におけるエスニック・コミュニティの「変遷」がコミュニティ内外のコミュニケーションにいかなる影響をもたらしているのかについて、文献上での検討を行う。

第 2 に、英ロンドン近郊のニューモルデンの現地調査を行い、エスニック・コミュニティの変遷とともに、①コミュニティメディア、②言語景観、③言語サービス、④観光情報——の目的・対象および情報の質と量がいかなる変化を遂げているのかを検討する。

第 3 に、上記の調査結果を、応募者の既往研究である日本および米国・カナダのコリアタウンの事例と比較し、エスニック・コミュニティの「変遷」がもたらす言語コミュニケーションの可能性と問題点を分析する。

3. 研究成果の概要 (600 字～800 字程度で記述)

本研究は 2014 年度の学園研究費 (B) 課題「英国における韓国研究の新たな展開」の内容を問題意識、内容を部分的に受け継ぐものとなった。英国がこの数年で、ヨーロッパで最も多くの韓国人住民を抱える国になったことを考慮すれば、英国と韓国の相互認識を理解していくことは、ヨーロッパの多文化社会の可能性や移民政策の展望、そしてヨーロッパのアジアへのまなざしを考察していく上でも重要である。

本研究では、近年、世界各地のエスニック・コミュニティでは、エスニックな独自性の維持だけでなく、グローバリゼーションを背景として、異なる人種・民族の間で生活基盤 (衣食住産業や医療サービスなど) を共有したり、文化的親和性に基づいたマイノリティ同士が「共存」「融合」したりする状況に注目して、資料やデータを集めた。また、英語などの外国語に堪能で、国際結婚などにも抵抗の少ない、いわば「グローバルなコリアン」が都市生活やコミュニケーションの面で共通的に持つ価値観や思考方式を明らかにすることを心がけた。

このような認識にもとづいて、研究期間中、日本、韓国、英国 (北アイルランドを含む) において、研究機関・図書館への訪問、ヒアリング、研究討論などを行うとともに、関係諸国・地域の研究者との対話も重視した。英国においては、ニューモルデン地域の調査を行い、資料収集やヒアリングの結果を、現在整理・分析しているところである。

4. キーワード (本研究のキーワードを 1 以上 8 以内で記載)

①コリアタウン	②ニューモルデン	③コミュニケーション	④
⑤	⑥	⑦	⑧

5. 研究成果及び今後の展望 (公開した研究成果、今後の研究成果公開予定・方法等について記載すること。既に公開したものについては次の通り記載すること。著書は、著者名、書名、頁数、発行年月日、出版社名を記載。論文は、著書名、題名、掲載誌名、発行年、巻・号・頁を記載。学会発表は発表者名、発表標題、学会名、発表年月日を記載。著者名、発表者名が多い場合には主な者を記載し、他〇名等で省略可。発表数が多い場合には代表的なもののみ数件を記載。)

本研究は今後も継続していくが、その成果は随時、学会・国際会議などでの報告などにより公表する予定である。また関連の著書、共著書を近く刊行すべく準備を進めている。